

<p>1. 主催者・共催者名 (独) 国立環境研究所</p>													
<p>2. タイトル 「アジア低炭素社会の実現に向けて：研究からわかる 2050 年アジア低炭素社会へ道筋、及びその具現化に向けた日本の貢献の可能性について」</p>													
<p>3. 目的・概要 アジア太平洋統合評価モデル(AIM)を用いたアジア各国・都市を対象とした低炭素シナリオ研究の成果をもとに、アジア低炭素社会の実現に向けた一足飛び型開発（リープフロッグ開発）を実施していくために、日本としてどのような貢献をすべきか、アジア各国の政府・研究機関と協働で開催したトレーニングやワークショップの成果を踏まえて議論を行う。</p>													
<p>4. アジェンダ 11月13日（水）</p> <table border="1"> <tr> <td>15:00-15:15</td> <td>「低炭素社会への道筋の定量化手法」 国立環境研究所 社会環境システム研究センター フェロー 甲斐沼美紀子</td> </tr> <tr> <td>15:15-15:30</td> <td>「2°C目標達成に向けた中国の温室効果ガス削減シナリオ」 中国・国家発展和改革委員会エネルギー研究所 Jiang Kejun 博士</td> </tr> <tr> <td>15:30-15:45</td> <td>「インドの低炭素社会実現に向けた道筋について：持続可能な低炭素交通に向けて」 インド経営研究大学アーメダバード校 (IIMA) PR Shukla 教授</td> </tr> <tr> <td>15:45-16:00</td> <td>「アジア低炭素社会シナリオ」 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 主任研究員 藤野純一</td> </tr> <tr> <td>16:00-16:15</td> <td>「アジアにおける低炭素開発実現に向けた AIM の役割」 地球環境戦略研究機関/低炭素アジア研究ネットワーク事務局長 西岡秀三</td> </tr> <tr> <td>16:15-16:30</td> <td>ディスカッション</td> </tr> </table>		15:00-15:15	「低炭素社会への道筋の定量化手法」 国立環境研究所 社会環境システム研究センター フェロー 甲斐沼美紀子	15:15-15:30	「2°C目標達成に向けた中国の温室効果ガス削減シナリオ」 中国・国家発展和改革委員会エネルギー研究所 Jiang Kejun 博士	15:30-15:45	「インドの低炭素社会実現に向けた道筋について：持続可能な低炭素交通に向けて」 インド経営研究大学アーメダバード校 (IIMA) PR Shukla 教授	15:45-16:00	「アジア低炭素社会シナリオ」 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 主任研究員 藤野純一	16:00-16:15	「アジアにおける低炭素開発実現に向けた AIM の役割」 地球環境戦略研究機関/低炭素アジア研究ネットワーク事務局長 西岡秀三	16:15-16:30	ディスカッション
15:00-15:15	「低炭素社会への道筋の定量化手法」 国立環境研究所 社会環境システム研究センター フェロー 甲斐沼美紀子												
15:15-15:30	「2°C目標達成に向けた中国の温室効果ガス削減シナリオ」 中国・国家発展和改革委員会エネルギー研究所 Jiang Kejun 博士												
15:30-15:45	「インドの低炭素社会実現に向けた道筋について：持続可能な低炭素交通に向けて」 インド経営研究大学アーメダバード校 (IIMA) PR Shukla 教授												
15:45-16:00	「アジア低炭素社会シナリオ」 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 主任研究員 藤野純一												
16:00-16:15	「アジアにおける低炭素開発実現に向けた AIM の役割」 地球環境戦略研究機関/低炭素アジア研究ネットワーク事務局長 西岡秀三												
16:15-16:30	ディスカッション												
<p>5. 発表・議事の概要 本サイドイベントでは、最初に、(独) 国立環境研究所 社会環境システム研究センターの甲斐沼美紀子フェローからアジア太平洋統合評価モデル(AIM)の概要および環境省環境研究総合推進費戦略的研究プロジェクト S-6 による今年度の研究成果である「低炭素アジアに向けた 10 の方策による温室効果ガス削減可能性」を報告しました。甲斐沼フェローは、研究の結果、なりゆき社会では、2005 年に世界の GHG 排出量が 42Gt であったものが、2050 年には 1.8 倍増え、アジアのシェアも 38%から 43%に増加する。これに対し、2°C目標を達成するためには、アジアでは 69%削減しなければならない。そのため、アジアの低炭素化をどのように進めるのか、また、国が違えば文化や経済状況が違い、低炭素社会構築に向けた方策も多様であると考えますが、その中で共通のものは何かを検討し、それを提示した上でそれぞれの国に合った低炭素シナリオ、その実現に向けたロードマップ、及び具体的</p>													

な方策を検討していることを紹介しました。10の方策のうち、方策1、2は交通部門、方策3は資源部門、方策4は民生部門の建築部門、方策5、6は再生可能エネルギー関連であり、特に5はバイオマスエネルギーの活用、6は太陽光や風力の利用に着目。方策7、8は農業及び土地利用分野、9、10は資金や制度、ガバナンスに関する方策です。最後に、甲斐沼フェローは、大気中のGHG排出量を増やし続けても、いつかは安定化のためにゼロにする必要がある。対策を遅らせるほど、GHG濃度が高くなれば高くなるほど、削減量は大きくなる。2℃目標を達成していくことは容易ではないが達成可能な目標であり、アジアでは、これまでの先進国型の発展の轍を踏まずに、直接に低炭素社会の構築に向かう一足飛び型開発(リープフロッグ型開発)により、最初から低い濃度へ移行させる方法をいまから検討・実施していくことが最善策であることを強調しました。

次に、中国・国家発展和改革委員会能源研究所のJiang Kejun博士から、産業革命以前と比較して、全球の気温上昇を2℃以下に抑える「2℃目標」達成に向けた中国の温室効果ガス削減シナリオに関する研究成果が報告されました。Kejun博士は、中国が2020年から2050年の間に排出をピークアウトさせ減少傾向に転じるために、政府に対し、計画をきちんと立て2℃シナリオのパスをたどるよう説得すべき段階にあり、そのために経済構造最適化政策、エネルギー効率についての政策、再エネの貢献向上についての政策、CCS、ライフスタイルの変革、土地利用変化に関する事項もモデルの中に取り入れ、政策等を検討していく必要があること、また、その政策を実行していくに当たり、資金がどう回るか対策コストを支払う能力があるのかについても考えなければならないことを示唆しました。

また、インド経営研究大学アーメダバード校(IIMA)PR Shukla教授からは、2050年までのインドの低炭素社会実現に向けた道筋について、持続可能な低炭素交通の観点から分析した研究成果が発表されました。Shukla教授は、世界の平均気温上昇を2℃以下に抑え、気候安定化目標を達成させるための方策として、インド社会に対して、インド固有の持続可能な低炭素成長の目的とその目標を達成させるための方策とメカニズムを国家開発戦略とその目標に準拠した形で構築し、インド社会に対して、科学的知見に裏付けされた望ましい社会・経済・技術的変革のあり方を「見える化」していくことで、インドにおいてBAUシナリオと比較し、2050年に70%削減することが可能な低炭素社会への道筋をモデル分析の結果を提示しました。交通部門に関しては、持続可能な交通移動手段・技術・燃料・物流を実現させる方策と、世界の気温上昇を2℃以内に抑える安定化目標を実現させるための最適炭素価格を国際規模で設定することで、交通部門において、2050年にBAU比で半減させ、インド全体のCO<sub>2</sub>排出量の3分の1を削減することが可能であると、モデル分析結果と共に報告しました。最後に、Shukla教授は、国際的な資金と技術協力とともに、低炭素社会実現に向けた行動を早期実施することで、2050年に、インドで一人あたり2トンのCO<sub>2</sub>排出削減目標を達成させることが可能であることを説明しました。

(独) 国立環境研究所 社会環境システム研究センターの藤野純一主任研究員は、AIMプロジェクトチームがAIMモデルを用いて、アジア各国の研究機関や政府機関と共同で取り

まとめたアジア各国・都市を対象とした低炭素シナリオ研究の成果を報告しました。

(公財)地球環境戦略研究機関/低炭素アジア研究ネットワーク事務局長の西岡秀三教授からは、日本の低炭素政策決定過程からの教訓、及び、現在急成長で経済発展を遂げているアジアにおいて、リープフロッグ開発の道を分析していく際の AIM の役割について紹介しました。

パネルディスカッションでは、アジアの特徴を取り入れたモデルを用いた低炭素シナリオ分析の役割に関する議論が行われました。さらに、2℃目標を達成していくことは容易ではないが達成可能な目標であり、科学的知見にもとづき、社会・経済・技術的側面からセクター別、かつ包括的に対策を早期実施していくことの必要性が強調されました。

## 6. 会場写真

